

「公印省略」

2 農林試第 239 号-2
令和 2 年 6 月 10 日

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

令和 2 年度病虫害発生予察速報第 2 号について

このことについて、病虫害発生予察速報第 2 号（ツマジロクサヨトウ）を発表したので送付します。

速報第 2 号

1 対象作物名：飼料用トウモロコシ

2 病虫害名：ツマジロクサヨトウ

3 これまでの発生状況

ツマジロクサヨトウは県内では 2019 年 8 月に初確認された。

2020 年は筑紫野市に設置しているフェロモントラップにおいて、5 月 28 日に雄成虫の誘殺が確認された。また、幼虫は 6 月 2 日に久留米市、6 月 5 日に大刀洗町の飼料用トウモロコシほ場で確認された。

本種は広食性の害虫であり、国内ではトウモロコシ（飼料用、観賞用、緑肥用及びスイートコーン）、ソルガム、さとうきび、エンバク及びもちきびで発生が確認されている。県内では、飼料用トウモロコシ及びスイートコーンで発生が確認されている。

4 防除上注意すべき事項

今後本種による被害増加の可能性があるため、ほ場での発生状況に注意し、発生を確認した場合は対策を講じる。

(1) 早期発見

生育初期に幼虫に食害されると被害が大きくなるため、ほ場をよく見回り幼虫の早期発見に努める。

(2) 農薬散布

農薬の散布にあたっては新葉の葉しょう基部に潜り込んでいる幼虫に届くよう、株の上部までしっかり散布する。

なお、周辺作物への農薬の飛散（ドリフト）には十分注意する。

(3) 農薬散布が困難な場合

① 早期刈取り

収穫が可能な場合は、直ちに収穫・調整を行う。

刈取り後は、土の上に落ちた幼虫やさなぎを駆除するため、速やかに耕耘する。

② すき込み

直ちに収穫が困難な場合は、被害の拡大や虫の分散等を防止するため、速やかにすき込みを実施する。

すき込みの実施に当たっては、幼虫やさなぎを破碎、又は土中深くに埋没するよう、土の表面に作物が見えなくなるまで深くすき込み（深さの目安 12 cm 以上）を 2 回以上行う。



写真1 ツマジロクサヨトウ幼虫



写真2 食害部と糞

*** 使用農薬については農林水産省 HP を参照。**

https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html

○病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「福岡県病害虫防除所ホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>

